

私の一冊

社会福祉学科 大石 桂子 先生

太田正博 著 『私、バリバリの認知症です』

小鹿図書館 493.758/W45

私は十数年前に、本学、県立短大を卒業し、介護福祉士として特別養護老人ホームに就職しました。中学生の頃から介護の仕事に就きたいと思っていたので、介護の仕事に就いた時には、とても嬉しく、楽しみばかりでした。就職して一年目だったと思います。ふと、職場の掲示板を見ると、「太田正博さん 講演会」というチラシが掲示されており、私の住んでいる地区で講演会が開催されることがわかりました。内容は、若年性認知症の当事者である太田正博さんが、自身の経験を語られるとのこと。講演会の日が、たまたま仕事が休みだったので行くことにしました。

講演には、太田正博さんの他、太田さんの病気やリハビリ、講演をサポートしている医師と作業療法士の方もおり、主に医師と作業療法士が太田さんにインタビューをする形で話が進められていきました。太田さんは、長崎県の職員として、長年にわたり福祉関係の職場に勤務されていたとのこと。そして、少しずつ自身の身体に変化が表れ、生活のしづらさを感じ、医師のクリニックに受診しました。その経緯や、認知症の診断・告知の様子、車の運転などについての話がされました。そして、認知症である自分ができること、今、大切に思っている居場所（デイケア）などについて、笑顔で語られたことが印象的でした。

「私、バリバリの認知症です」、この本は、私が参加した講演会を含め、全国で講演されてきた記録をもとに書き起こされた本になります。太田さん、医師、作業療法士の方のやりとりが良くわかり、太田さんご自身の言葉で語られる内容は、その言葉を発している太田さんの表情が文章からも読み取れるほどに、わかりやすい内容になっています。写真も多く掲載されており、講演会の様子や、デイケアでの楽しそうに活動に参加されている太田さんの様子、日々の生活の中で工夫されているもの（カレンダーや鍵）などの紹介、漢字で書けなくなった自分の名前……。本当に多くの写真が載せられていました。中でも、

漢字を書くことが大好きだった太田さんが、「私は、私の名前がもう書けません」と、自分の名前を漢字で書けなくなっていき、その自分を受け入れるまでの心の動きを、一生懸命漢字で名前を書こうとしている写真と共に紹介されていた内容が印象に残りました。太田さんが自分自身を受け入れるまでの苦しさや悩み続けた日々を思うと苦しくなり、そして受け入れられた太田さんの強さに感動をしました。自分だったらどうだろう……。前向きに、受け入れられるだろうか……。

最後に……。本にも紹介されていますが、講演会では、太田さんが「マイウェイ」という曲を歌ってくださいます。趣味が合唱であることから、とても素敵な歌声でした。私が参加した講演会でも、講演会の最後にマイウェイを歌ってくださいました。音楽が流れ始め、太田さんが歌い始めたその時、会場に流れていた音楽が止まってしまいました。おそらく、会場の音響トラブルだったと思います。太田さんの歌も止まり、静かな時間が流れました。太田さんの表情から笑顔が消え、困惑した表情になり始めました。その時、一緒に講演をされた医師が、アカペラでマイウェイの続きを歌いだしました。太田さんがハッとした表情になり、すぐに一緒に医師と歌い始めました。音楽の無い中、お二人の声が会場に響きます。太田さんの表情に笑顔が戻り、歌が終わりました。会場からは大きな拍手が、長いこと鳴りやみませんでした。その様子を見て、私は、“どのような病気があっても、支える側の人に、病気に対する正しい知識とその人を理解しようとする心があれば、病気があっても、その人は自分らしく生きられるのではないか”と感じました。介護福祉士としての自分は、日々関わっている方々に対し、しっかりと向き合っているだろうか。そう思いながら講演会を後にしました。

講演会の後、少しして本書が発売されました。講演会の様子を思い出しながら読み、自分自身を見つめ直すための大切な一冊として、今でも読んでいます。

会話形式の読みやすい本です。認知症って？と思う方、是非手に取ってみてください。